

平成17年度に総合科学技術会議が実施した 大規模研究開発の事前評価の概要

目的： 平成18年度から開始予定の国費総額が約300億円以上の研究開発について、内閣府設置法に基づき総合科学技術会議が評価を行い、その結果を公開するとともに、評価結果を推進体制の改善や予算配分に反映。

検討方法： 各府省の概算要求を受けて、評価専門調査会において外部専門家等も参加して調査・検討。平成17年11月4日の同調査会で評価（案）をとりまとめ、同年11月28日の本会議で審議、決定し、関係大臣に意見具申。

X線自由電子レーザーの開発・共用 【文部科学省】	戦略的基盤技術高度化支援事業 【経済産業省】
<ul style="list-style-type: none"> ・ 極めて高輝度のX線レーザーを発振し、一原子レベルの超微細構造、化学反応領域の超高速動態・変化を瞬時に計測・分析することを可能とする「X線自由電子レーザー装置」を整備するとともに、発振するX線レーザーを効果的に利用するための研究開発を行い、広範な科学技術分野の発展を強力に牽引するための研究開発基盤として共用を図る。 ・ 18年度23億円, 19年度75億円 / 計画額総額369億円(5年間) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 我が国重要産業の競争力を支える基盤技術の高度化に向けて、革新的かつハイリスクな研究開発や、生産プロセスのイノベーション等を実現する研究開発に取り組む中小企業を支援する。 ・ 18年度64億円, 19年度94億円 / 計画額総額557億円(6年間)
<p>【総合評価】 本プロジェクトは、幅広い分野における産業や国民生活の向上に役立つ成果を諸外国に先駆けて創出するとともに、放射光分野における我が国の国際競争力強化に寄与すると期待されるものであり、<u>実施することが適当</u></p> <p>【指摘事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 科学技術に対する貢献と社会・経済への波及効果に関する、国民に分かりやすい説明の努力 ・ プロトタイプ機の活用とその成果の還元 ・ 利用研究の充実と速やかな推進 ・ 運営・評価組織の体制整備 	<p>【総合評価】 本事業は、我が国製造業の技術の高度化を支える基盤技術を担う中小企業が研究開発を行う上で抱える、技術力の向上、人材や資金の確保等の諸課題を解決するための重要な取組であり、<u>実施することが適当</u></p> <p>【指摘事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 戦略的分野の設定と戦略的基盤技術の選定 ・ 優れたテーマ及び研究チームの採択と実行目標の設定 ・ 実施組織とその責任の明確化および強力な推進体制の整備 ・ 成果に対する評価と評価結果に基づく実施者の処遇 ・ 知的財産権等、研究開発の成果の取扱

平成17年度は上記の他、「最先端・高性能汎用スーパーコンピュータの開発利用」の事前評価を実施。（今回のフォローアップの対象外）